

問題【国語】

下の文章は、漢文の一節で、下線部は息子が落馬したことについての父のセリフで「どうして、このこと（骨折）が幸福にならないか」という意味です。実際に骨折がどのような良いことをもたらしたか説明してみましょう。

家良馬に富む。其の子騎を好み、墮ちて其の髀を折る。人皆之を弔す。其の父曰く、「此れ何遽ぞ福と為らざらんや」と。居ること一年、胡人大いに塞に入る。丁壮なる者、弦を引きて戦ひ、塞に近きの人、死する者十に九なり。此れ独り跛の故を以つて、父子相保てり。

(注) 髀：太ももの骨、胡人：北方の異民族、
丁壮なる者：一人前の男性、跛：足が不自由なこと

豆知識 雑学コラム

試験当日は平常心で

今回は故事成語の「塞翁が馬」から出題しました。「塞翁が馬」は次のような話です。



昔、中国の北の端の砦（＝塞）のそばに老人が住んでいました。この老人の馬がいなくなり、みんな落胆していたところに、その馬が足の速い良馬を連れて帰ってきた。その老人の子がその良馬に乗り落馬して足の骨を折ったが、おかげで兵役を免れて命が助かった。



この話では不運なこと（馬の失踪や、息子の骨折）の後、幸運なこと（良馬がやってくるや、命が助かる）が起こることから、「塞翁が馬」とは「人生の幸運と不運は予測できないこと。些細なことでは一喜一憂しないこと」という意味の教訓として使われる言葉ですね。

さて、受験では様々な予想外があります。昨日たまたま解いていた問題が出たという幸運もあれば、今までやったことない問題が出てきたという不運もあります。しかし、昨日やった問題だからと油断をすると、気づいたら試験時間が無くなっていたや、やったことない問題が出たけど、その問題を飛ばしたら得意分野の問題が出てきてちゃんと合格点が取れたなど「塞翁が馬」のように幸運と不運が入れ替わることもたくさんあります。「人間万事塞翁が馬」、試験当日はどんな予想外にも一喜一憂せずに平常心で臨みたいものですね。

【解答】

息子は落馬して足の骨を折ったが、おかげで兵役を免れ

て命が助かったから